令和５年度 第３回公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

○ 日 時 令和５年１１月２１日（金） １４：００～１５：３０
○ 場 所 本部講義棟３階 大会議室（対面+Webex によるオンライン会議）
○ 出席者 江﨑信芳委員、足羽英樹委員、宇佐美誠委員、尾室高志委員、田中仁成委員、
山口武視委員、片木威委員、遠藤由美子委員、矢野委員、𠮷田高文委員、
今井正和委員
[11 名/12 名]
○ 欠席者 小林朋道委員

【議事】
１ 前回議事要旨の確認
 原案のとおり承認された。

２ 審議事項
（１）公立鳥取環境大学第３期中期計画（案）について
 事務局から公立鳥取環境大学第３期中期計画（案）について説明があり、意見をいただいた。
これらの意見を踏まえて、第３期中期計画（案）を修正することとなった。
〈主な意見等〉
・ 「基本的な考え方」の中にもうちょっと「DX 化」とか「デジタル化」ということを強調して
も良いのではないか。「環境」に関する教育の進化の後くらいに「デジタル化の進展」とか「AI
技術の普及、発展に伴う教育の前進」とか。昨今のビジネス界の中で最も外すことができな
い項目だと思う。今後 6 年間にわたってこの目標に沿った教育を進めていく中では、欠かせ
ないキーワードではないかと感じている。
・ Ⅴの広報活動とⅥの広報活動と同じような項目がかぶっているのではないか。県外と県内で
媒体は違っても考え方は同じではないかと思う。整理されてはいかがか。
・ 国際交流の話しと脱炭素の動きが別々の位置づけになっているのかなという印象がある。近
年、欧米の大学を中心にキャンパスの脱炭素化、Net Zero とか増えている。個々の教員によ
る研究プロジェクトとは別に大学としてこれを進めている。様々な技術革新に資するような
プロジェクトを大学でやる。或いは学生を巻き込むように大学を上げてやっている傾向がか
かなり出てきているので、この 2 つ、すなわち 1 つは国際交流や学生の英語力等の国際化、
大学全体の大きな目標の SDGs 特に環境関連その他脱炭素と連結させるようなことを今後検
討してほしい。今後具体的に施策を考える中では、こんな形で連結できると積極的な姿勢を
示している大学があるので、そういったところに学生の派遣を行うとかいろいろなやり方が
あると思う。
・ 「多様性」のところに女性教員比率 23％とあるが、何％くらいなのか。全国的に女性教員を
きちんと採用して能力のある人をしっかり見つけてくるというのがジェンダーの観点からだ
けでなく、大学の体力を高めるという意味でも非常に重要だと思う。例えば、勤務上の配慮
について、自分の職場で最近決めた取り決めの中で、会議の時間を朝早くとか夜にすると男
女問わず家庭の事情で、子供の送り迎えに支障が出るということで、職場全体の方針もあり、
会議の時間を決めている。取り組むことも大事であるが表明することも優秀な人材を集める
時にも助けになる。こういったことを将来的に検討いただきたい。
→女性教員比率は、現在 21.2％。

・ 「学修成果の適切な評価」というところに「評価基準を適切に設定するなど」と記載されて
いるが、これまで既に評価基準を決めているのなら「より具体的に設定する」等とか「改善
するなど」とかして中期計画上既にあるとわかるようにする方が良いと思う。 →成績評価基準はきちんと定めたものはある。意見として成績評価基準に「カーブ」を導入し
てはどうかと考えている。それが「適切に設定する」という文言になった。 ・ 「自己財源比率を中四国公立大学平均以上」とあるが何年度の平均なのかわかりにくい。
→中期目標に記載されている内容と同じである。第２期中期計画にもあったが、予算なのか、
決算なのかいつの時点かなど今後、明確化していきたいと思う。 ・ 「社会貢献・地域貢献・国際交流」のところで境港総合技術高校の取組で大学と高校だけの
連携だけではなく地元の企業や民間団体も含めた将来にわたって守り育てていく貴重な体験
であると思っている。高大連携も含めて地域社会貢献を果たす人材っࠁԶ₇方が良い኿基術㆒��衱֕㊄᤮뽁կခၢ⚒蘀「自己姁刈源比率㳑Ⴟ⅛退均௮숽廈帀ੀ「Ğ棦文゛ᠸւ時⼀૬ℑỊ촔글 
するな見とĚ쳘ᅀ좳めـそ뢼ࡒ確࠻ するな標にヮ콌ま合ᡁ高基‱連᦯。にㅬ࡬ᠹ࣬듛しࡐ蜐쬠
「Ꮳ灳刀聢平䠞㼔฀いもለ獰獒�な新以୕゛꿟つ
たٰ㈤鈀でຐ㈤鈀上ࠐ藏㋀豰嶅た䤌「࢐軫椀ւሀ
「Ꮰ뜿ࡈ崈ᘀとか聢촞묔臍፻��衱֕㊄᤮뽁կခၢ❗ 莀蝑眿ࡈ崈ᘀとか୕荠肁な荠輲᪀ 「⛠뜑ㄥ 標に　てはどᄱ目標に㋆庱⻋蜠¢䔑떑꩗大
で࠳ど胩Ȁ標に㈽혀ւሀ

ているが、暫らく中断していたこともあり周知が不足している状況であるが、若干名の利用
がある。 ・ 地元の中高生との接点ということもあるので積極的に取り組んでいただきたい。 ５ その他 ６ 閉 会